

令和5年度事業報告書

令和5年1月1日～令和5年12月31日

令和3年度事業活動として下記の事業を行った。

1. 日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会の開催
2. 2024年以降の日米草の根交流サミット開催準備
3. 広報活動

1. 第30回日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会の開催

<定款上の該当条項:第1章第4条>

開催地 : コロンバス及びオハイオ州内9地域

開催時期 : 2023年9月19日(火)～9月26日(火) (6泊8日)

参加者数 : 日本からの参加者 : 61名 (うち中濱家より3名)

ホイトフィールド家より : 6名

大会参加者総数 : 1,413名

(オープニング及びクロージングの式典、歓迎レセプションとフェアウェル・イベント参加者、ホストファミリー、ボランティア、支援者、18の地域分科会でのプログラム参加者、コラボレーションイベント参加者等を含む)

内容 : コロナ禍後初めて、5年ぶりに通常通りの「第30回日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会」を2023年9月19日(火)から9月26日(火)にかけて計8日間、州都コロンバスを含む州内9地域で開催し、アメリカの縮図と言われ、昔ながらのアメリカ文化が根付く地で日米市民同士の心触れ合う交流が行われた。また、HONDAを中心として自動車産業に関わる日本企業が集まる地域であるほか、特徴あるオハイオの魅力を内外に紹介する機会にもなった。

●オハイオ州での受け入れ体制

草の根サミット受け入れにあたり、セントラルオハイオ日米協会(JASCO)に全面協力を依頼。コロナ禍の影響により、当初2024年開催の予定が1年前倒しとなるも、速やかに大会準備実行委員会が組織され、JASCO役員、事務局そしてボランティアが一体となって準備が進められた。加えて、在デトロイト総領事館及び外務省や、JASCOとCIE-USとの連携による地元企業などへの寄付協力依頼や米国内の助成申請など、受

入れから準備に渡り、多大なご協力をいただいた。

● ローカル・ツアー（9月20日）

以下の3つのコースを提供。いずれも好評であった。

- A. 【歴史コース】 コロンバス・シティ&ネイティブ・アメリカン
(32名参加)
- B. 【文化コース】 アーミッシュ・カントリー (18名参加)
- C. 【パイオニアコース】 ホンダ・TRC (Transportation Research Center)・ミュアフィールドカントリークラブ (10名参加)
- D. 【水沢第一高校プログラム】 コロンバス・シティ&州議会議事堂見学
(13名参加)

● オープニング式典と歓迎レセプション（9月20日夕刻）

オープニング式典と歓迎レセプションは、国定歴史建造物に指定されているオハイオ州議会議事堂で開催。日本人参加者たちは、まず事前に用意された水沢第一高校生の通訳による議事堂ツアーに参加後、議事堂中央の「ロタンダ」での歓迎レセプションに出席。コロナ罹患のため急遽欠席となったマイク・デワイン知事の歓迎メッセージが読み上げられ、ジェイムズ・ケリーCIE-US 理事長の挨拶後、オハイオを始め全米から集まった市民たちとの歓談による和やかな時を過ごした。

続いて、アトリウムに場所を移し、着席でのオープニング式典を開催。翌日から始まる地域分科会のグループごとの配席がなされ、キーパーソンたちとの交流がここから開始された。日米の草の根交流の意義に賛同するヒロユキ・フジタ在クリーブランド名誉領事による基調講演、ノリコ・ミルズ JASCO 理事長、進藤雄介在デトロイト総領事らによる歓迎の挨拶の後、ホイトフィールド船長子孫6代目のスコット・ホイトフィールド氏と7代目のワイアット氏、万次郎子孫5代目の中濱京氏及び6代目の明日香氏が登壇。明日香氏とワイアット氏による中濱家とホイトフィールド家の恒例の地球儀交換が行われた後、京氏、スコット氏、そしてペリー提督子孫のマシュー・ペリー氏よりそれぞれの日米の草の根交流についてのメッセージが伝えられた。今大会にはホイトフィールド家からはボブ夫妻、スコット氏及び長男ワイアット氏、長女モーガン氏とパートナーが出席。中濱家からは京氏、文氏、明日香氏が出席した。

歓迎のパフォーマンスとしてダブリン市からのアイリッシュダンスが披露されると、多くの日本人参加者は初めて見るそのダンスに感動を覚えていた。最後に主催者側として、石川和秀 CIE 理事長が出席者へお礼を述べ、参加者たちは翌日からのプログラムを期待し、式典は終了した。

● 地域分科会（9月21日～9月24日）

大会3日目の9月21日(木)からの3泊4日、大会のハイライトである地域分科会が9地域に於いて開催された。参加者達は、それぞれの分科会でその地域ならではの数々の文化交流を楽しみ、それぞれの家庭でのホームステイを通して、アメリカの古き良き文化を残す中西部の生活を体験し、親睦を深めた。

< 地域分科会 受け入れ市 >

1. コロンバス
2. ダブリン
3. デラウェア
4. メリーズビル
5. ベルフォンテン
6. トロイ
7. シドニー
8. ファインドレー
9. ブラフトン(水沢第一高校プログラム)

上記受け入れ地域のうち、9.ブラフトン分科会は、教育委員会が岩手県からの水沢第一高校生徒8名を受け入れ、ブラフトン内の小・中・高・大学及び日系企業と交流を深めるプログラムを行った。

また、分科会期間中に二つのコラボレーションイベントが行われた。

- 生け花紹介デモンストレーション

草月流コロンバス支部が草月流師範を持つ参加者にデモンストレーションを依頼し、州内の生け花団体や地域の方々へ紹介した

- ペリー提督プログラム

ペリーCIE-US理事とJASCO理事の一人により企画されたプログラム。黒船で来日したマシュー・ペリー提督の兄、オリバー・ペリー提督にゆかりのあるオハイオ州北部の大学や高校、日本人学校で、オリバー・ペリー提督の弟がなした日米交流の功績や、万次郎とホイットフィールド船長から始まった草の根交流、そして日米草の根交流サミットについて紹介する講義を行った。

● クロージング式典&フェアウェル・パーティー（9月24日）

3泊4日の地域分科会終了後、9月24日(日)、コロンバス郊外のコロンバス動物園のアフリカン・イベント・センターでクロージング式典及びフェアウェル・パーティーを開催した。コロンバス動物園の招待により、日中は、参加者とホストファミリーたちは園内で思い出に残る楽しい時を過ごした。式典に先立ち、会場には動物園の小動物たちやキリンと触れ合うアトラクションが用意された。現地のコロンバス琴アンサンブルによる琴演奏が披露されるなか、食事が始まり、参加者とホストファミリーたちは歓談を楽しんだ。

その後の式典では、メリーズビル分科会よりヘンク・バービー メリーズビ

ル市議会議長、そしてトロイ分科会よりロビン・オダ トロイ市長が分科会の様子や成果を報告し、ノリコ・ミルズ JASCO 理事長が挨拶と共にアメリカ側スタッフ、ホストファミリーやボランティアへの感謝の言葉を述べた。

また、2024年度開催地の和歌山県国際課の中筋裕紀氏が和歌山県の魅力を紹介し、次年度大会への参加をホストファミリーやボランティアに呼び掛けた。

最後に、JASCO の夏の恒例イベントである「盆フェスティバル」を再現した盆踊りを参加者全員で楽しんだ後、ジェームズ・ケリーCIE-US 理事長が挨拶し、サミット成功の謝辞を述べ、次回大会の参加を呼び掛けた。

● ポスト・サミット・オプション・プログラム (9月25日～)

サミット終了後、オプションのプログラムとして、次の2つのプログラムを提供した。

- ① フェアヘイブンホームステイ&ボストン (3泊5日) 12名参加
※協力：ホイットフィールド・万次郎友好協会
- ② ミネソタ州ツインシティホームステイ (2泊3日) 6名参加
※協力：ミネソタ日米協会

メディア掲載：

- Columbus Dispatch 9月22日
- Sieney Daily News 9月23日
- Bellefontaine Examiner 9月25日
- Bluffton ICON 11月8日

2. 第31回日米草の根交流サミット2024和歌山大会準備

令和6年度の第31回日米草の根交流サミット2024和歌山大会開催について、以下のような準備を進めた。

開催地： 和歌山県

開催日： 2024年7月9日(火)～15日(月)

共催： 和歌山県、CIE-US

後援： 在大阪・神戸米国総領事館、NAJAS

地域分科会： 以下の8地域での分科会を開催することとし、準備を進めた。

- ①和歌山市 ②橋本市 ③田辺市 ④白浜町 ⑤上富田町
- ⑥串本町 南紀国際交流協会 ⑦那智勝浦町 ⑧新宮市

式典及びレセプション：和歌山県庁及び日米草の根交流サミット実行委員会の運営にて以下の会場を用意した。

- 7月10日(水) 開会式典：和歌山県民文化会館 小ホール
歓迎レセプション：ダイワロイネットホテル和歌山
- 7月14日(日) 閉会式典及びフェアウェル・パーティー：
ホテルアバローム紀ノ国

宿泊ホテル(7/9・10・14)：ダイワロイネットホテル和歌山 または
ホテルグランヴィア和歌山

オプション・ローカル・ツアー：大会2日目、7月10日(水) 式典前のローカル・ツアーには以下の3コースを用意した。

- A. 「密教コース」 高野山と宿坊での精進料理を体験。奥の院、金剛峯寺を巡る
- B. 「徳川・万葉コース」 紀州徳川の歴史と万葉集に歌われた絶景や芸術に触れるコース。紀三井寺、和歌の浦、雑賀崎、和歌山城を予定
- C. 「民俗コース」 深山幽谷の地形による自然や神社信仰が発達した和歌山県の民俗的な側面に巡るコース。伊太祁曽神社、和歌山電鉄乗車、貴志駅たま駅長、紀伊風土記の丘訪問を予定

B 及び C コースには、櫻井敬人氏*及び万次郎資料調査団が準備を進める「万次郎展(仮)」の見学を含める予定

*櫻井敬人:太地町歴史資料室学芸員、ニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員、万次郎研究家

ポスト・サミット・オプション・プログラム：大会終了後のプログラムには以下の6プログラムを設定した。

- 1. 京都ホームステイ(2泊)と東京ホテルステイ(1泊)
- 2. 金沢(2泊)&能登(2泊)ホームステイと東京ホテルステイ(1泊) *[中止]
- 3. 大和飛鳥ホームステイ(2泊)+東京ホテルステイ(1泊)
※協力:大和飛鳥ニューツーリズム
- 4. 京都フリー(ホテルステイ3泊)
- 5. 東京フリー(ホテルステイ3泊)
- 6. 京都(2泊)&東京(1泊)フリー

参加者募集活動：和歌山大会への参加者募集のため、下記の活動を行った。

- E. 募集パンフレットの作成
- F. 日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会・NAJAS 年次総会での告知
- G. メール・SNS・他での配信

3. 2025年以降日米草の根交流サミット大会開催準備

2025年以降の日米草の根交流サミット大会の開催候補地として、過去大会開催地の自治体や協力者、及びCIE-USと全米日米協会や助言を得ながら、以下の関係各所へのアプローチやコネクションづくりを進めた。

米国：フィラデルフィア、ハワイ、フロリダ、アラバマ他の各日米協会及び日米交流関係団体

日本：富山、沖縄、秋田、長野他の自治体や各国際交関係団体など

2026年の日米草の根交流サミット大会の開催地として、フィラデルフィアでの開催をフィラデルフィア日米協会の賛同を得ることができたため、準備を進める。コロナ禍で生じたサミット開催年の変動を従来通りに戻すことができ、土佐ジョン万会及びフェアヘイブンの万次郎・ホイットフィールド友好協会との連携も従来通り行えることになる。

また、2027年の万次郎生誕200年に向けて、日本での開催準備を引き続き進める。

4. 情報の発信

- 1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。
ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。
 - 草の根通信 114号(3月)
 - 草の根通信 115号(6月)
 - 草の根通信 116号(9月)
 - 草の根通信 117号(12月)
- 2) 活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)の発行
 - ・ 2023年版発行
- 3) ホームページ、Facebookを通じた発信
大会告知、ニュースレター、ウェブイベントの告知、活動情報等を掲載した。

以上

令和5年(2023年)度事業報告書 附属明細書

令和5年1月1日～令和5年12月31日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
 - － 2023年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)
 - － 日米草の根交流サミット2024 和歌山大会 募集パンフレット